

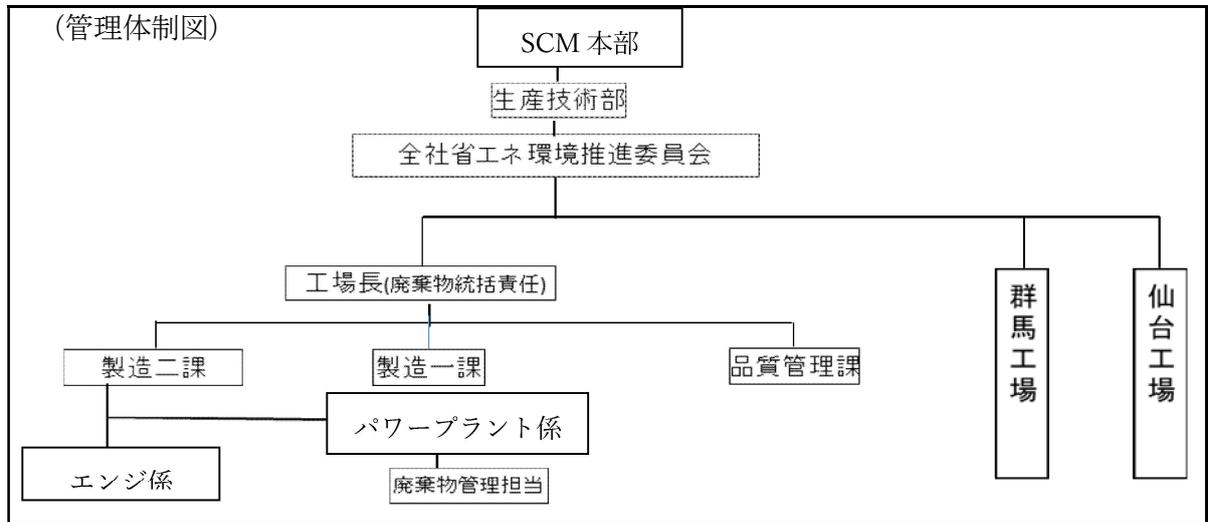
様式第二号の八(第八条の四の五関係)

(第1面)

産業廃棄物処理計画書	
令和5年 6月30日	
愛知県知事 殿	
提出者	
住 所 愛知県北名古屋市熊之庄十二社66-3	
氏 名 ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	
生産本部名古屋工場 TEL0568-21-1031	
工場長 野中 清茂	
(法人にあつては、名称及び代表者の氏名)	
ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社	
代表取締役社長 時松 浩	
廃棄物の処理及び清掃に関する法律第12条第9項の規定に基づき、産業廃棄物の減量その他その処理に関する計画を作成したので、提出します。	
事業場の名称	ポッカサッポロフード&ビバレッジ株式会社
事業場の所在地	愛知県北名古屋市熊之庄十二社66-3
計画期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日
当該事業場において現に行っている事業に関する事項	
① 事業の種類	10:飲料・たばこ・飼料製造業
② 事業の規模	製造出荷額：22,718,000千円
③ 従業員数	90人
④ 産業廃棄物の一連の処理の工程	別紙1の通り

(第2面)

産業廃棄物の処理に係る管理体制に関する事項



産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙3-1の通り		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	排出量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙3-2の通り		

産業廃棄物の分別に関する事項

①現状	(分別している産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 混合廃棄物の分別を適切に行い、ビニール及び金属の有価物取引を実施
②計画	(今後分別する予定の産業廃棄物の種類及び分別に関する取組) 廃プラスチック類の分別をさらに進め、有価物化を目指す 電気部品の有価物化を進める

(第3面)

自ら行う産業廃棄物の再生利用に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 対象外		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら再生利用を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項			
① 現状	【前年度（令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行った産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量した産業廃棄物の量	6768.73 t	t
	(これまでに実施した取組) 脱水汚泥の含水率削減を目指し、脱水機の調整を実施		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類	汚泥	
	自ら熱回収を行う産業廃棄物の量	t	t
	自ら中間処理により減量する産業廃棄物の量	6851 t	t
	(今後実施する予定の取組) 汚泥脱水機のメンテナンスによる脱水汚泥量維持及び削減 排水処理設備への薬剤種類見直しによる発生汚泥含水率低下を図る		

(第4面)

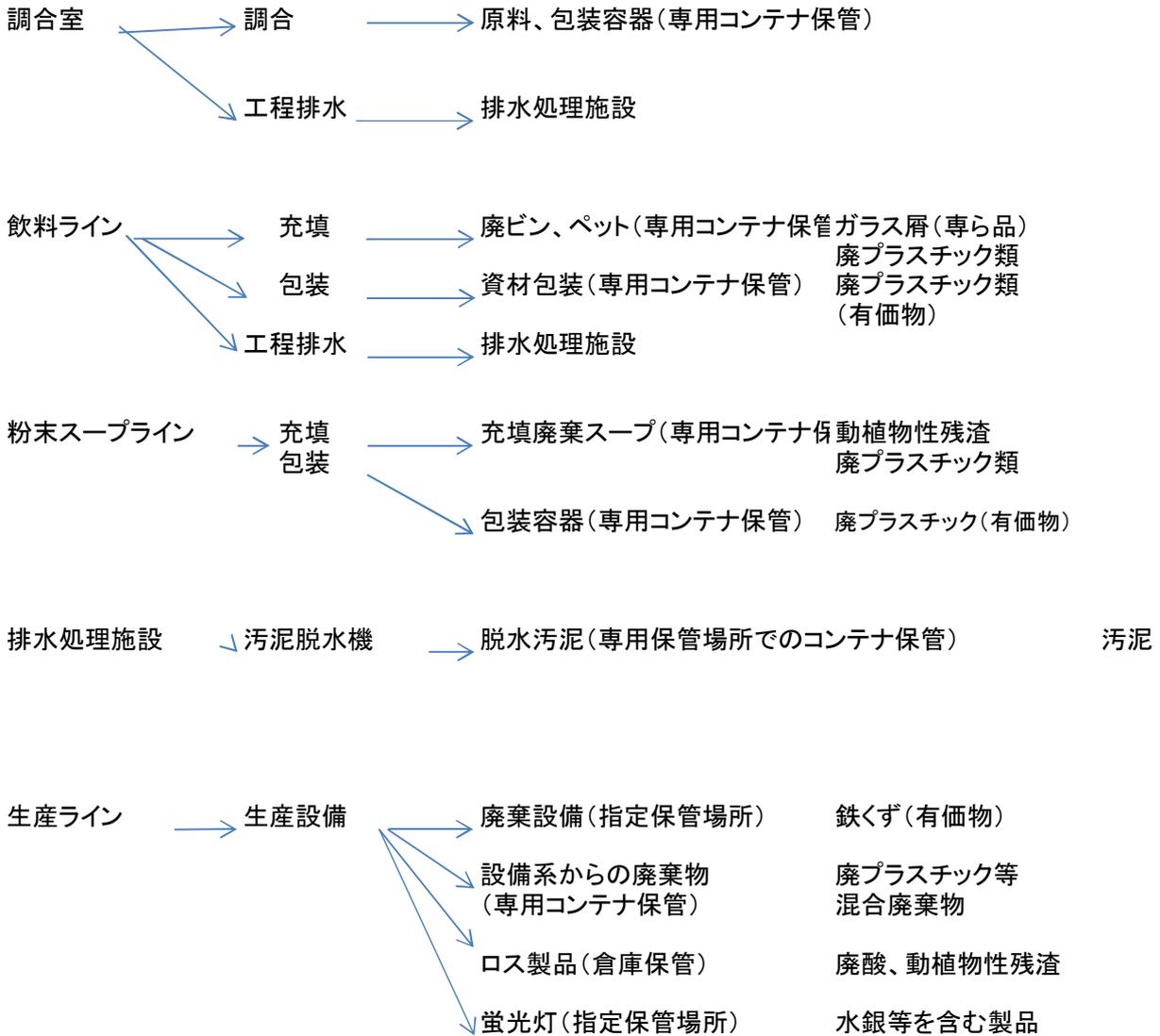
自ら行う産業廃棄物の埋立処分又は海洋投入処分に関する事項			
①現状	【前年度（ 年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行った産業廃棄物の量	t	t
	(これまでに実施した取組) 対象外		
②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	自ら埋立処分又は海洋投入処分を行う産業廃棄物の量	t	t
	(今後実施する予定の取組)		
産業廃棄物の処理の委託に関する事項			
① 現状	【前年度（ 令和3年度）実績】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への処理委託量	t	t
	再生利用業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の熱回収を行う業者への処理委託量	t	t
	(これまでに実施した取組) 別紙4-1の通り		

②計画	【目標】		
	産業廃棄物の種類		
	全処理委託量	t	t
	優良認定処理業者への 処理委託量	t	t
	再生利用業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者への 処理委託量	t	t
	認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への 処理委託量	t	t
	(今後実施する予定の取組) 別紙4-2の通り		
※事務処理欄			

備考

- 1 前年度の産業廃棄物の発生量が1,000トン以上の事業場ごとに1枚作成すること。
- 2 当該年度の6月30日までに提出すること。
- 3 「当該事業場において現に行っている事業に関する事項」の欄は、以下に従って記入すること。
 - (1)①欄には、日本標準産業分類の区分を記入すること。
 - (2)②欄には、製造業の場合における製造品出荷額（前年度実績）、建設業の場合における元請完成工事高（前年度実績）、医療機関の場合における病床数（前年度末時点）等の業種に応じ事業規模が分かるような前年度の実績を記入すること。
 - (3)④欄には、当該事業場において生ずる産業廃棄物についての発生から最終処分が終了するまでの一連の処理の工程（当該処理を委託する場合は、委託の内容を含む。）を記入すること。
- 4 「自ら行う産業廃棄物の中間処理に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、自ら中間処理を行うに際して熱回収を行った場合における熱回収を行った産業廃棄物の量と、自ら中間処理を行うことによって減量した量について、前年度の実績、目標及び取組を記入すること。
- 5 「産業廃棄物の処理の委託に関する事項」の欄には、産業廃棄物の種類ごとに、全処理委託量を記入するほか、その内数として、優良認定処理業者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律施行令第6条の11第2号に該当する者）への処理委託量、処理業者への再生利用委託量、認定熱回収施設設置者（廃棄物の処理及び清掃に関する法律第15条の3の3第1項の認定を受けた者）である処理業者への焼却処理委託量及び認定熱回収施設設置者以外の熱回収を行っている処理業者への焼却処理委託量について、前年度実績、目標及び取組を記入すること。
- 6 それぞれの欄に記入すべき事項の全てを記入することができないときは、当該欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、産業廃棄物の種類が3以上あるときは、前年度実績及び目標の欄に「別紙のとおり」と記入し、当該欄に記入すべき内容を記入した別紙を添付すること。また、それぞれの欄に記入すべき事項がないときは、「—」を記入すること。
- 7 ※欄は記入しないこと。

ポッカサッポロフード&ビバレッジ名古屋工場 廃棄物発生フロー



別紙3-1 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

①現状 前年度(令和4年度)実績

廃棄物の種類	排出量(t/年)	これまでに実施した取り組み
ガラス屑	87.13	ガラス色による分別を実施
汚泥	7,125.00	脱水機メンテナンスを確実に実施し、適正運転による含水率の安定化
汚泥(シリカゲル)	4.92	原料防腐剤のため生産量により増減
水銀を含む製品 蛍光灯	0.90	照明器具のLED化
木くず(木製パレット)	0.18	木パレットの使用廃止
廃プラスチック類	50.55	ビニール袋等を分別し有価物化を実施 ペットボトルの洗浄分別を実施
金属屑	3.22	1斗缶、ドラム缶等を有価物化を実施
動植物残渣 (粉末スープ)	98.24	生産ロスの削減
廃酸	72.17	生産ロスの削減
廃油	0.00	オイルフリー設備の導入
合計	7,442.31	

備考

別紙3-2 産業廃棄物の排出の抑制に関する事項

②計画 目標(令和5年度)

廃棄物の種類	排出量(t/年)	今後実施する予定の取り組み
ガラス屑	83.70	生産ロスの削減、資材管理徹底
汚泥	11,436.00	排水処理薬剤変更による含水率削減
汚泥(シリカゲル)	4.92	原料防腐剤のため生産量により増減
水銀を含む製品 蛍光灯	0.15	照明器具のLED化
木くず(木製パレット)	0.22	木製パレット返却
廃プラスチック類	49.29	ペットボトルロス削減
金属屑	4.65	資材廃棄及び工程廃棄ロスの削減
動植物残渣 (粉末スープ)	112.70	生産効率の向上、ロスの削減
廃酸	15.60	生産効率の向上、ロスの削減
廃油	0.27	メンテナンス頻度の見直し
合計	11,707.50	

備考

別紙4-1 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

①前年度(令和4年度)実績・現状

廃棄物の種類	ガラス屑	汚泥	汚泥 シリカゲル	水銀を含む製品 蛍光灯	廃プラスチック類	金属屑	動植物性残渣	廃酸	廃油	木くず	合計
全処理委託量(t/年)	87.13	356.27	4.92	0.9	50.55	3.22	98.24	72.17	0	0.18	673.58
優良認定処理業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
再生処理業者への処 理委託量	87.13	356.27	4.92	0.9	50.55	3.22	98.24	72.17	0	0.18	673.58
認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
認定熱回収業者以外の 熱回収を行う業者への処 理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

これまでに実施した取り組み

再生利用業者との処理契約で実施している

汚泥脱水機での汚泥の含水率低下に向けて脱水率向上薬剤の使用を実施

活性汚泥での適正な余剰汚泥の管理

プラスチック、ペットボトルなど原料容器を有価物化する

包装ビニールを有価物にする

別紙4-2 産業廃棄物の処理の委託に関する事項

②計画 目標(令和5年度)

廃棄物の種類	ガラス屑	汚泥	汚泥 シリカゲル	水銀を含む製品 蛍光灯	廃プラスチック類	金属屑	動植物性残渣	廃酸	廃油	木くず	合計
全処理委託量(t/年)	82.7	347	4.5	0.86	48.00	3.1	93.30	68.6	0	0.17	648.23
優良認定処理業者 への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.00
再生処理業者への 処理委託量	82.7	347	4.5	0.86	48.00	3.1	93.30	68.6	0	0.17	648.23
認定熱回収業者への 処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	
認定熱回収業者以外 の熱回収を行う業者 への処理委託量	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	

今後実施する予定の取り組み

生産ラインの稼働率向上に取り組み、製品ロスを削減する

分別を徹底し、有価物化を進める

優良認定処理業者を選定する

脱水汚泥の含水率削減に向けた取り組みを継続する